

ず～むあっぷ★オホーツク

夏芽のアスパラガス（遠軽町）

2026年10月
No.９４
農林水産省
北海道農政事務所
北見地域拠点

農業未経験から、第三者継承へ！
農業という手段を通じてやりたいことを実現！



遠軽町生田原

嶋田　翔太　さん

【嶋田ファームのホームページ】

農業未経験から就農への第一歩

嶋田ファームの代表である嶋田翔太氏は北海道出身で、北海道大学卒業後、臨床検査技師と塾講師を経て農家となりました。

嶋田氏は就農研修を受けるまでは農業経験が一切ありませんでしたが、「何かを生み出す仕事で、自分の裁量があり、休みも自ら確保できる仕事をしたい」という思いから農業に関心を持ち、札幌の就農フェアで就農先を探し始めました。就農フェアではオホーツク地域の畑作を希望していたことから、遠軽町と出会い、継承元で２年間の研修後に第三者継承するという前提で、就農への第一歩を進みました。

就農後は約17haのほ場でアスパラガス、秋まき小麦、てんさい及びかぼちゃの４品目を栽培しています。就農にあたっては、農地価格が安く、先代が丁寧に使っていた30～40年物の中古機械を引き継ぐことができたことから初期投資を抑えることができました。また、遠軽町から事務的なサポートや新規就農奨励金をいただけたことは大きなメリットだと思います。



【春芽のアスパラガス】

アスパラガスとの出会い

農家になるまで、アスパラガスは人生で数本しか食べたことがなく、特に好きな作物ではありませんでした。しかし、研修中に継承元の親方が栽培した採れたての春アスパラガスを食べ、そのおいしさに感動したことで、「たった１本で人を感動させることができ、それを自分の手で作り上げられる」という思いが生まれました。

また、アスパラガスはハウスがあれば大がかりな機械を必要とせず、10年間以上継続して収穫できることに加え、遠軽町が推進している作物でもあったことから、経営の柱の一つに据えることにしました。

こだわりが詰まったアスパラガス栽培

アスパラガスの栽培には、強いこだわりを持って取り組んでいます。継承元では平畝栽培を行っていましたが、作業時の身体的な負担や土壌病害のリスクなどを考慮し、枠板式高畝栽培に挑戦しました。一般的に高畝栽培の畝の高さは60cmほどですが、畑地にハウスを建てたことで十分な土層を確保できたため、40cm程度に抑えています。また、ハウス内には土壌水分計を4か所に設置し、場所ごとの土壌水分を細かく把握しながら、かん水量を調整しています。こうしたデータも活用しながら、より良い栽培方法を追求しています。

肥料についても、毎年土壌分析を行い、その結果を踏まえて調整しています。土壌分析は２～３社に依頼し、それらの診断結果を確認した上で肥料を選定するなど、自らが納得できる資材を吟味して使用しています。

現在は、４棟のハウスのうち、２棟で平畝栽培、2棟で枠板式高畝栽培を行っています。来年にはハウスを１棟増設し、新たな品種の栽培にも挑戦する予定です。





上：平畝栽培
下：枠板式高畝栽培



【地元企業とのベーコンコラボ】

直販と地域連携で広がる経営の可能性

近年はホームページやSNSを活用した直販にも注力しており、顧客から直接感想が届くことが大きなやりがいと感じています。売上も年々増加していることも日々の励みとなっています。

さらに今年は、地元企業のベーコンとアスパラガスを組み合わせたギフトセットを試験販売し好評を得たことから、ふるさと納税返礼品としての展開も視野に入れています。

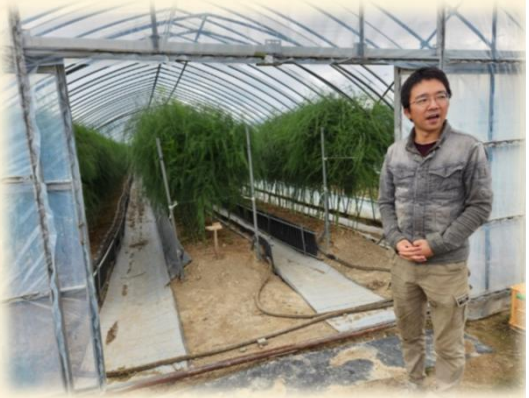
営農面でも地域資源を積極的に取り入れています。アスパラガスの肥料にはオホーツク産のホタテ貝殻石灰を利用するとともに、同時期に第三者継承で経営を開始した近隣酪農家のたい肥と麦稈を交換して循環利用を行っています。

農業だからできることとその先の展望

嶋田氏は、「農業そのものを目的とするのではなく、農業という手段を通じて、自分のやりたいことを実現したい」と語ってくれました。自分が好きなオホーツクの自然や風景に触れられること、日々変化のある仕事であること、そして消費者に直接販売し、反応や感想を得られることが、自身が大切にする価値観と重なるとともに現在の自分のやりたいことを実現しています。

一方で、こうした価値は、個人塾の立ち上げなど農業以外の仕事でも得られるものとも考えられますが、「やりたいことの実現」に向け、こだわりのアスパラガス栽培を通して挑戦したいとのことでした。

また、塾講師としての経験を生かし、農業を通じた食育やアスパラガスの収穫体験ツアーなど、食育と観光を組み合わせた取組も構想しており、農業を起点に活動の幅を広げることを考えています。



【ハウス栽培の取組を説明する嶋田氏】